

鳥取西高近畿同窓会報

第 11 号

2019 年 4 月 1 日発行

発行：鳥取西高近畿同窓会

発行責任者：米澤道隆（西高 39 年）

編集責任者：山内紀嗣（西高 43 年）



第五十五回総会 開催！

第五十五回近畿同窓会が遠路母校より加賀田副校長、同窓会より西尾副会長（三十七年）、蔵多庶務幹事（五一年）そして県の関係機関から中原鳥取県西本部長（五十九年）をお迎えし、平成三十年十一月二十三日（金）大阪キャッスルホテルにて総勢五十一名参加のもと賑やかに開催されました。

特に今回は当初開催を予定していた六月二十四日が直前の十八日に発生した大阪北部地震の被害が、出席予定会員に多くでたことで中止延期を余儀なくされ、初めて十一月に開催することになりましたが、変更にもかかわらず多数の出席をいただき無事開催することができました。

まず総会の部では、米澤道隆会長（三十九年）から、今年近畿同窓会は創設五十五年、母校は創立一四五年という節目の年を迎えた。一四五年前と言えば明治六年であり、この年は西郷隆盛を中心とした征韓論派が破れ政府の要職を辞し下野するという大きな政変が起きた年。NHK大河ドラマ「西郷（せご）どん」でも放映され記憶に新しい所です。又近畿同窓会も五十五年の歴史上創設以来中心であった、旧制鳥取一中の大先輩が高齢化で今回どなたも出席されないという大きな転換点となったとの挨拶がありました。加賀田副校長からは西高整備事業が完了したことについて写真をもとに詳しく説明がありました。

議事では、事務局より平成二十九年度決算報告と松岡監査（四四年）から会計監査報告、続いて平成三十年度予算案についての提案があり、承認されました。今回は五十五回ということで山内紀嗣幹事長（四三年）による、イスラエル発掘報告（聖書の地を掘る）と題して講演をいただきました。

懇親会の部は、岩永副会長による乾杯の音頭でスタート。今年も三十四年卒業の植村副会長の琴と足立伸之助さんの尺八による演奏、同四十二年、四十三年を中心とする「にわかバンド」の演奏があり、大いに盛り上がりしました。

フィナーレでは例年の如く、高女、西高の校歌を安田裕美さん（四三年）によるピアノの生伴奏により高らかに歌い、再会を誓いつつ井上昌さん（三八年）の中締めで無事閉会となりました。

近畿同窓会事務局長 村江信幸（西高四三年）

第55回鳥取西高近畿同窓会出席者

（卒業年次順、敬称略）

来賓：加賀田剛、西尾公孝、蔵多敏夫、中原美由紀

一中：出席者なし

高女：浜本英子、福田幸子

西高：西原章恵、武田彰正、米田登美子、佐々木清臣、田井 勇、足立伸之助、植村京子、佐伯 宏志、米村博昌、常村一則、森下健男、森下美枝子、井上 昌、米澤道隆、頼政恵美子、石田正純、石塚敏子、岩永建夫、田口 徹、江阪詩朗、岡野清子、片山寿恵、久保美知子、小谷繁昭、谷口正夫、本家公一、水谷陽子、村江信幸、森本邦子、安田裕美、山内紀嗣、山本雅章、庄田英一、松岡孝道、吉村鉄太郎、窪田邦倫、山田陽子、佐藤 収、村上悦洋、田淵道幸、岩井順一、尾崎充典、松本麻希年、加藤敏明、富山哲明 合計 51 名



第56回鳥取西高近畿同窓会のお知らせ

期 日：平成31年6月30日（日）11:00～15:30

受付は10:30より

会 場：大阪キャッスルホテル6階

大阪市中央区天満橋京町 1-1

Tel 06-6942-2401

①総会：11:00 ②懇親会：12:00～15:30

会 費：¥7,000 〈会場にご持参下さい〉

（29歳以下の会員は5,000円）

恒例の長寿（満80歳）のお祝いをします

幼き頃の思い出と現在

遠藤 準二（西高三年）

私は昭和十八年九月十日気高郡美穂村朝月の伯父の家にいました。午後五時三十分頃鳥取大地震が発生し、当時四歳でしたが家を飛び出し、その夜は伯父と二人でご飯にソースをかけて食べた事、そして美味しかった味を今でも鮮明に覚えています。忘れることの出来ない思い出です。

この地震で鳥取市中心部は壊滅し、木造家屋のほとんどが倒壊（市内五五四軒）死者一〇八三人（戦時中のため男性が少なく七割の人が女性）と記載されています。私の父はその頃、勤めていた会社の転勤で満州の奉天へ行っていました。

昭和十九年母と二人で父を追ひ、神戸港から客船に乗り中国に向かいました。

奉天での生活は二年間程で、五、六歳の頃の事ははっきりしたことは覚えていませんが、当時日本人の家庭には中国人のお手伝いさんが居て私はその人たちにかわいが

ってもらっていたのではと記憶しています。中国人の人が作ってくれた粟で出来たこんもりとした饅頭の美味しかった事、そして秋の熟した柿は何もない時代、本当に美味しかった。ただ、柿を食べた後、何故か回虫が湧くのは困ったなという思いがありました。

終戦になってからだと思いますが、食糧難でコメがなく粟・稗・コウリヤンなどを食べました。稗はおかゆにして食べるのですが、熱いうちに茶碗の中をかき混ぜないで上からそするように食べるのです。冷めてしまったらもう不味くて食べられないのです。そんなある日、私は男性のお手伝いさんと薪割をしていました。私が薪を渡してお手伝いさんが斧で割っているのです。どういふ状況か分かりませんが、斧が私の右手人差し指を真つ二つに割りました。当時お医者さんは軍医しか居なく多分父が連れて行ったのでしうが指を握りしめて行き麻酔もそこそこ何針か縫って帰ったのだと思います。翌朝、再度軍医のところに行つたところ指の裏側を縫っていない、この傷は相当長くかかったようです。

今、人差し指はちよつと短くて第一関節は曲がりませんが、五本の指とも無事にあります。

昭和二十一年五月山口県仙崎港に両親と三人引き揚げてきました。引揚船は貨物船で水は塩辛く船倉なので息苦しく病人の方もいたように記憶しています。もしかして、残留孤児になっていたかもしれない戦中最後の幼き時代の事です。

現在は、日本民謡をやっております。毎年各地方で全国大会のコンクールがあり、①宮崎日向市・日向木挽唄、②宮崎高千穂・正調刈干切唄、③広島呉・音頭の舟唄、④岡山下津井・下津井節、⑤大阪高槻・淀川三十石船唄、などに出場しています。成績は上位入賞、準優勝まではいきませんが、なかなか優勝は難しいです。今年傘寿。まだこれから役に立つ、声の出る限り挑戦あるのみ！の気概で今年も各大会にエントリーしていく予定です。

本を読む楽しさ

石塚 敏子（西高四年）



西高時代は決して文学少女ではなかった私ですが、子育ての頃からずっと図書館は利用していました。そんな折、地域に小さな図書室が出来ると知り「図書館司書」の資格を持っていたので、思わず「これだ！」と思い応募しました。

わが子を通った小学校の空き教室を利用して幼児から老人までが利用できる「神の谷小学校市民図書室」、予算等は市の生涯学習課から出ます。室内の書棚、椅子の購入、レイアウトから選本、貸出しまで全てを任せてもらえました。週四日、午後からの数時間、それまで専業主婦だった私にはとても充実した時間で四十代後半から十八年間も続けることが出来ました。

その時から始めた「絵本の読み聞かせ」は図書室を辞めた今も続いています。

一年生、二年生、三年生、各学年毎に授業時間をいただいて五、七冊読みます。民話、季節物、教科書に載っている本の関連本、課題図書、おもしろい本、こわい本等々、時には淡々と、またある時は登場人物ひとりひとりになりきって声を変えて表現豊かに、また、子守歌などの場面では、しみじみと歌いながら読み進めますと子供たちはシーンと聞き入ってくれます。テレビゲームやアニメの好きな子たちも本は本も好きなんですネ。読んでもらった本を自分で読んでみようかなというきっかけにもなっています。そういえば地域でブックスタートというわずか四か月の赤ちゃんに「読んであげましょう」という活動にも参加しました。

わが子に読み聞かせをしたのは字が読めない時期だけでした。読めるようになっても本人が望むなら読んであげるのがいいそうです。もつともつと読んであげていたら子育てがうんと向上していたのではと、ちよつと悔やまれます。古希も過ぎ、昔話に出てくるおばあさんようになって「読み聞かせ」が続けていけたらいいなと思っています。



続けていくこと

寺田 菜摘（西高四四年）

在学中は陸上部に所属し、真っ黒になつて走り回っていました。そんな私は卒業後、誰も聞いた事のないと思われる「裏千家茶道研究所」に進学しました。小三の時から習っていた茶道を専門的に学ぶ場でした。それ以来途切れることなく、細々と続けて参りました。自分が小学校の時から親しんで来たものですから、子供達に茶道を伝えたいと思い、なるべく機会を作っています。

ここ十五年余り、毎年三月に地元の中学校で、卒業を控えた三年生に「饞の茶会」を催しています。緊張して入室する生徒達は、クラスメイトが運ぶお菓子やお茶を素直に受け入れてくれます。お茶を飲んだ事はあるが茶席は初めての生徒、お茶を飲むのが初めての生徒、皆恐る恐る飲んでいきます。三十分足らずの一席が終わる頃はまだ足の痛みで上の空ですが、最後まで話を聞いてくれます。退席の時には柔らかな表情で美味しかったですと言つて帰って行きます。

女子大の茶道部

や、高校の茶道部へも出掛けていますが、それぞれに出会いが楽しく、同じ茶道を志す若



い子供達に、自分が身に付けた知識や技術を精一杯伝えようとしています。最近の楽しみは、小さい子供達に、おとぎ話がテーマの茶席でお茶を一杯あげる事です。子供達が茶席で出会った何かを覚えてくれると嬉しいのです。ちなみに、今年のテーマは「浦島太郎」にしています。

十八歳の時に出会った恩師は、九十五歳の現在も一碗のお茶を通じて平和な世界をと、跳び回っておいでです。それ程高邁な理想ではありませんが、私は美味しいお茶を味わってもらえるよう努力するつもりです。

会員の近況

（昨年の返信葉書通信欄より）



井上 浩（西高二五年）足腰が弱り、杖をついて休み休み歩いていて、遠出はできません。

高野泰明（西高二五年）脚の調子が悪く、歩行できない状況です。

村山龍夫（西高二五年）難聴ですし、腰も曲がってきました。

中嶋照夫（西高二六年）現在のところ、一応診療は続けています。しかし、次第に物事の処理などがスローになってきています。

並川正江（西高二六年）この歳になりますと鳥取の高校時代の友人と会うこともなくなり、鳥取高女時代の二、三名の人と時々電話するくらいとなりました。

は元気に活動できましたが、それ以降、突然膝を痛め、歩くことが辛くなりました。毎日のラジオ体操と三千歩前後の散歩は必須です。

森西良俊（西高二八年）常勤の監査役で週四日の会社勤めをしております。健康で特に問題のない日常ですが、そろりと終活に踏みだしています。

村田雪枝（西高二九年）年齢を重ねるごとに足腰が弱ってきました。

高橋 徹（西高三一年）八十歳になるまで僅かな報酬で働きました。今は趣味の園芸で体を動かし、年に一度の湯治を楽しんでいます。

草野榮子（西高三三年）ボランティア活動で忙しく、元気の源としています。

川上恵子（西高三四年）四十歳から始めた美術館巡り、趣味の集大成に入りました。美術館の追っかけをしております。

佐伯宏志（西高三四年）七インチのタブレットから十・五インチのアイパッドプロに替えました。大画面なので同窓会の写真を見るには快適ですが、持ち運びが大変です。

古川 肇（西高三四）なんとか健康を保って生活しています。目下、ウィンドウズ一〇にてこずっています。

宮崎宏紀（西高三四年）七十七歳と高齢になりましたが、自営で鉄鋼業（機械切削加工）をしております。八年半ほど前に設備を奈良県大和高田市に移転し、月に十、十五日ほど車で通っています。

横山光紀（西高三六年）会社は息子に譲って、今年から毎日、日曜日になりました。

鳥取城天球丸の巻石垣

（崩れないための補強。向こうは西高）



市川 隆史（西高三七年）インターネットにはまり、日々数時間もみるようになりました。新聞・テレビ等とは違うものの見方、考え方が多彩に述べられているので引きつけられてしまっています。

常村一則（西高三七年）悠々自適とはいえませんが、俳句、詩吟、舞踊、唄と趣味を楽しんでおります。

井上 昌（西高三八年）町内の老人会（万青年会）に入会して、バス小旅行、グランドゴルフ、麻雀等に参加しています。

日比健次（西高四〇年）身体の内たところから支障が出て多種の薬を服用する毎日ですが、仕事（ISO審査員）は続けています。

松田春一（西高四〇年）市民農園のナスビと一緒に元気で暮らしております。

石田正純（西高四一年）新しい仕事を始めました。百姓兼貸農園。田畑七反用意できました。木津川市の休耕田（子・孫不工作）。将来はNPO法人づくりをしたいです。荒地未耕作の作業を目指しています。広いのでトラクターの確保が必要です。

山田静子（西高四一年）東大寺のお水取りに行ってきました。火の粉をかぶって、何となく有難い気持ちになりました。

久米健次（西高四二年）五年前、大学を定年退職もまだ細々と研究を続けています。休日は畑仕事とテニス。

小上育代（西高四二年）毎日忙しくしております。寺の仕事、趣味の水泳、大正琴の講師、等々に頑張っています。一番大変なのは近所に住んでいる息子一家の食事と孫の世話です。

松田哲治（西高四二年）昨年、十一月に大きな手術を行いました。今年一月中旬から職場復帰し、常勤中です。

松本真知子（西高四二年）長年ヤマハのレッスンをしていますが、今は楽器店のピアノ教室と自宅の生徒（少人数）さんのレッスンをしています。

安宅寿昭（西高四三年）在宅酸素で過ごしています。

江阪詩朗（西高四三年）「あるがままを受けとめる」。これが日々を過ごしていく術と知りました。

植原淑子（西高四三年）近くの畑を借りて野菜作りを楽しんでいます。

小谷博子（西高四三年）ボチボチ歩いています。六甲山にもまだまだ知らない登山路があります。そして登りと下りでは見る風景が違います。季節によっても変化を見せてくれます。

谷口正夫（西高四三年）体は健康で、趣味のゴルフ、音楽、軽登山などを中心にしています。結構忙しくしております。

村江信幸（西高四三年）現在、NTT淀総合運動場で管理人として働いています。再来年の三月（七〇歳）まで勤務する予定です。

す。毎日のようにグラウンド内を歩き、ストレッチをし、筋肉量増に挑戦！いい汗をかいています。

寺田菜摘（西高四四年）ここ数年、若い人達と時間を過ごす機会が増え、とまどいつつも日本人としての良識を伝えようとしています。

足立陽一（西高四七年）ハッピーリタイアメントを謳歌するはずが、働かないことに罪悪感すら感じ、家事見習いの今日この頃です。

坂岡隆司（西高四七年）毎朝十歳の愛犬と琵琶湖畔を散歩しています。京都の山科で障害者福祉施設を運営しています。

矢野 敏（西高四七年）平成二十五年四月、学校現場を退職、平成二十五～二十九年教育委員会勤務、平成三十年四月より揖龍少年育成センターに勤務。

田淵道幸（西高五〇年）昨年、定年を迎え、証券稼業から足を洗うつもりが、まだがみついています。

由谷ひろみ（西高五〇年）ママさんコーラス、声楽の方のピアノ伴奏など、楽しんでおります。

米田明弘（西高五二年）四月に定年を迎えましたが、シニア社員として継続勤務しています。

清水正俊（西高五五年）少なくとも六十五歳までは働くつもりで、第二の職場で奮闘中です。

平成三〇年度年会費

ご協力者

（卒業年次順 敬称略）

池澤晴江、吉村芳野、浜本英子、岸本宏、村山龍夫、西原章恵、高野泰明、井上浩、武田彰正、太中繁夫、伏野義夫、樋上佐恵子、米田登美子、森西良俊、前屋敷洋子、櫻井典彦、奥谷裕一郎、村田雪枝、澁谷須万子、山本義憲、佐々木清臣、山根啓作、松永澄子、柳井教郎、篠田琢司、高橋徹、洞山馨子、田口邦子、松本七子、田井勇、加嶋敬、遠藤準二、草野榮子、大倉幸典、足立伸之助、植村京子、田中正寿、有松敏樹、佐伯宏志、米村博昌、川上恵子、国岡宏一、下村玲子、石本武志、曾根崎崇臣、村尾頼彦、大塚元彦、清水直行、中山巖雄、東中文江、市川渥史、山田忠尚、常村一則、森下健男、森下美枝子、井上昌谷口睦子、山本勝三、米澤澤隆、加藤孝幸、津田清正、西尾彰子、頼政恵美子、石田正純、寺谷英一郎、宇都宮栄子、森田暁、巽哲男、久米健次、田口徹、岩永建夫、上田俊作、黄金弘子、小上育代、竹内亨、石塚敏子、松本真知子、安宅寿昭、得田ヨウコ、小谷博子、土岐久美子、江坂詩朗、片山寿恵、久保美知子、小谷繁昭、谷口正夫、谷口収、中村彰夫、船本俊博、本家公一、水谷陽子、村江信幸、森本邦子、安田裕美、山内紀嗣、山本雅章、庄田英一、森本陽子、松岡孝道、吉村鉄太郎、寺田菜摘、窪田邦倫、山田陽子、佐藤和代、酒澤一嘉、佐々木忠司、村岡節之、坂岡隆司、佐藤収、村上悦洋、澤美和子、山田希代子、高田憲一、田淵道幸、由谷ひろみ、佐々木映子、干場容子、米田明弘、岩井順一、向井裕子、大山久美子、山根滋利、篠村徹太郎、清水正俊、竹内麻里子、弓削由佳、飯野修、勝見武、窪田倫子、浦川ひかり、氏名不詳一名

（合計一三二名）

西高二ユース

平成三十年



復元された擬宝珠橋

（右は工事用の橋）

十月、これまで西高の入り口であった大手橋が江戸時代のものを復元した木製となり、完成しました。水に強い栗材を使用とのこと。この橋は車では通れません。西高へは東側（武道館横）から入って下さい。

お悔やみ



川口重義（一中一三年）、由本一郎（一中二〇年）、鯉崎与志男（一中二二年）、高橋あい子（西高三四年）、濱岡幸夫（西高四二年）、竹田大三郎（西高四四年）謹んでご冥福をお祈りいたします。

（連絡頂いた方のみ）

（事務局連絡先） 〒631-0803

奈良市山陵町二三六一

サンプリザ二〇八

村江 信幸 宛

090-3465-72003